11 観量性理論

予め、断りを述べておく。学問の会の【世界規模の間違い】の報告では幾つかの新原理・原則（以下では宇宙の仕組みに基づく絶対概念）を提唱し、新たな教育のあり方を促している。これは、コンピュータや人工知能の開発にも影響が及ぶ。当然、従来の学校教育（学術的には相対性原理を規範とする相対概念一辺倒）、とは出発点が全く異なるものとなっている。換言すれば、学問の会の新原理・原則は、全ての学会や関係方面と対立するためどこに報告をしても受け入れられないのである（権威・権力者は自身の立場を温存する為に子どもの権利条約を無視した我欲に走る）。従って、学問の会の新原理・原則（新たな教育の枠組み）の提唱は、ホームページに拠る発表を余儀なくされていることに留意されたい。なお、本論（11観量性理論）に入る前に、グーグルの「世界規模の間違い」の検索結果に目を通しておくのは有益である。

※グーグルにおける検索結果

・…（数千万件台が続く）…
・２億５千万件(2019年10月29日)
・３億７千４百万件(2019年10月30日)
・３億５千１百万件(2019年10月31日)
・３億７百万件(2019年11月1日)
・３億１千２百万件(2019年11月2日)
・３億９千９百万件(2019年11月3日)
・…（数千万件台が続く）…
・９千１百２０万件(2020年3月27日)
・８千９百２０万件(2020年3月28日)
・８千８百３０万件(2020年3月29日)
・８千９百８０万件(2020年3月30日)
・８千３百７０万件(2020年3月31日)
・８千２百１０万件(2020年4月1日)
・８千９百９０万件(2020年4月2日)
・９千７百７０万件(2020年4月3日)
・１億８百万件(2020年4月4日)
・１億２百万件(2020年4月5日)
・１億４百万件(2020年4月6日)
・１億９百万件(2020年4月7日)
・１億６百万件(2020年4月8日)
・１億１千５百万件(2020年4月9日)
・１億１千８百万件(2020年4月10日)
・…（数千万件台が続く）…

という結果であり、この地位は何年も続いている。

なお、国連の子どもの権利条約、世界中の子どもを欠陥教育から守る為に［11観量性理論］の著作権は解放(2019年09月17日)した。ただし、Wikimedia Foundation（以下に関係機関を含む）には［11観量性理論］の著作権を解放しない。その理由は、後の「特別ページ」で証明する。

速度比較の原理と速度基準

Ａ君とＢ君の競走を考えてみよう（項１の挿絵を参照せよ）。Ａ君に対するゴール（運動の指標）は歩いている亀と定め、Ｂ君に対するゴールは走っている兎と定めておこう。勿論、Ａ君の亀に対する速度およびＢ君の兎に対する速度、これらは

数学を使って求められる。しかし、この状況では不公平な競走となるのは明らかである（行われている全てのレースを考えてみよ）。そこで、ゴールは亀でも兎でも構わないが何れか一つに限定するという方法によって競走の公平・共通性の保証を得るのである。これを【速度比較の原理（絶対概念の導入）】と呼ぶ。そして、速度比較の原理に基づいて設定する一つの運動の指標を【速度基準】と呼び、以下に図式を使って詳しく説明することにする。

これからの議論にあたり、重要な言葉の意味を整えておく必要がある。「**三体問題は相互作用を扱う議論**」として良く知られている。他方、ここでは「**等速直線運動を扱う議論として三体関係の言葉を使う**」ことにし、両者の原理的な違いを明確にしておくことにする。

◇三体関係（下記の二体関係との違いに注意せよ）

身の回りや宇宙空間には、数え切れない程の互いに運動している物体が存在していて、これら「多数の物体の運動は一度に観察される（経験事実）」のである。このとき、原理的には物体Ａ、Ｂ、Ｃの三つの関係を取りあげておけば議論の目的が十分に果たせ、これを【三体関係】と呼ぶことにする。

◇二体関係（上記の三体関係との違いに注意せよ）

ところで、学問は、三体関係の運動を数（量）でもって記述する必要がある。このとき、「三体関係をバラシて二つの物体の関係で扱わなければならない」のである。何故なら、「速度の定義式（Ｖ＝Ｌ／Ｔ）は二つの物体の関係しか扱えない」からである（原則）。よって、この制限条件を強調する為に【二体関係】という言葉をあてておく。つまり、任意の二体関係の間に定まる一つの量が【相対速度】である。この結論をもう一歩推し進めると「相対速度は観測者がどこに居ようともその立場に依存しない」という更なる結論に導かれる。

◇三体関係（速度の比較）の記述法

さて、「各二体関係で求めた速度を再び三体関係に組み戻すという操作を行わなければならない」のだが、このとき従来の学問は大きな間違いを犯しているのである。以下に図式を用いてその間違いを詳しく解説する。

［図１（従来の速度の記述法）］

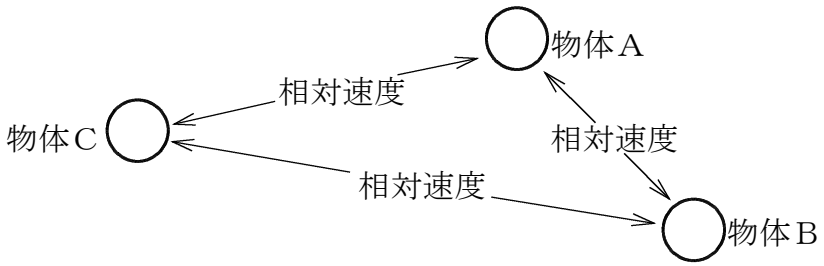
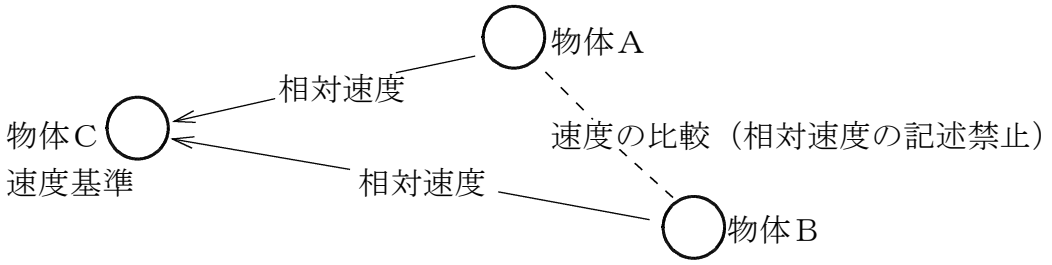


図１は従来の学問、すなわち「三体関係を二体関係にバラシて組み戻したという一連の操作を図式化したもの」である。この図式によれば、物体Ａ、物体Ｂ、物体Ｃが堂々巡りの速度基準に成りあっていることは明らかである。あるいは、それぞれの一つの物体が二つ（多数）の速度を同時にもつ、というあり得ない状態となってしまうのである。

次の図２は、「速度比較の原理に従って一連の操作を行った三体関係の図式」である。すなわち、この方法に拠り、はじめて【速度の比較（速度差）】が求まることになるのである。ここで注意せよ。例えば、競馬を考えてみる。このとき、馬に乗っている各騎手や多くの観客の立場はみな違っているが、レースの勝敗の結果は一つしかないということである（先述の◇二体関係…の証明を良く見よ）。

［図２（速度比較の原理に基づく記述法）］

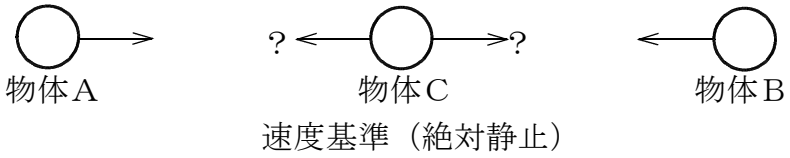


蛇足を付け加えておく。物体Ａと物体Ｂの間の相対速度も数学としては記述可能であるが、その記述は禁止される。何故なら、この相対速度を記述すれば図１の状態になってしまい、一つの速度基準Ｃを定めたことが無効になるからである。

◇三体関係の記述における注意点

図３は、議論を分かりやすくする為に「三体関係」を同一線上に配置した図式である。そして、三つの物体は互いに近づいている、としたものである。すると、速度基準と定めた物体Ｃの運動はどの様に考えたらよいのであろうか、が問題となってくる。

［図３（速度基準と絶対静止）］



上の図３の速度基準と定めた物体Ｃに注目してみると、物体Ｃは図の左右の方向へ一度に運動している、と言うのか!?。しかし、一つの物体が一度に異なった方向

へ運動することなど不可能だ。勿論、三つの物体が同一線上にない場合でも原理的には同じである。ここで、物体Ｃに対して言えることは他の物体Ａや物体Ｂに対しても同様に成り立つ。つまり、無条件で、一つの物体に対して一度に複数（三体関係では無数となる）の速度の記述はできないというわけである。

さて、図３で考えてみると、「物体Ｃは空間に静止している」と言う以外の妥当な答えは見当たらない。ところが、三体関係は互いに運動していることが大前提となっている為、物体Ｃに静止を規定する方法が問題となる。ここで結論を先に言えば、「速度基準にとった物体Ｃに絶対静止を規定する」のである。

＊「相対運動（又は相対速度）や相対静止」とは、ある物体の他の物体に対する運動（速度）や静止のことである。

＊「絶対運動や絶対静止」とは、一つの物体で規定できる運動や静止のことである。

◇絶対静止の規定法

速度基準に要請される絶対静止の規定法を論じよう。なお、この議論は外力の働きかけ等、相互作用を除外した理想的な状況である。

では、物体Ｃを速度基準と定め、それに対する物体Ａと物体Ｂの速度を考えてみる。このとき物体Ａと物体Ｂの速度は違っているが、その原因は、物体Ａと物体Ｂの内部にあると結論される。何故なら、この議論は相互作用など外力の働きかけを排除した前提にあるからである。従って、物体Ａと物体Ｂは絶対運動しているという推論が成り立つ。そして、この推論は物体Ｃにも同様に成り立つ。ところが、各物体の絶対運動の量は分からない為、絶対運動と絶対静止の区別はつけられない。この推論に基づき【絶対運動と絶対静止の相当原理】を提唱する。そして、この原理をもう一歩進めれば【任意の物体に絶対静止を規定できる】という結論に到達する。但し、絶対静止の規定は一個に限定される。一度に、全ての物体に絶対静止を規定したならば、相対運動しているという前提が反故になるからである。

◇固有の速度（空間における全ての物体の位置確定）

議論を簡単かつ原理的に絞り込める様、宇宙空間において互いに等速直線運動している無数の物体（三体関係）を採用して話しを進めることにする。

それでは、物体Ａと物体Ｂの間に記述された速度を取り上げてみる。ここで、記述された速度は物体Ａのものなのか、物体Ｂのものなのか、を従来の学問は原理的に述べることができない。しかし、自動車レース等を見れば、参戦している各車が【固有の速度】をもっているのは疑う余地もない（運動している物体に固有の速度を規定できない従来の学問は経験事実に反する）。これを一般化すれば「絶対静止基準の物体Ｃは速度０である為、それに対する物体Ａや物体Ｂの速度（それら距離関係）は必然的に固有のものとなり、よって宇宙空間での三体関係における全ての物体の位置が確定される」というわけである。

11観量性理論 vs ブリタニカ国際大百科事典 vs ウィキペディア百科事典

［11観量性理論］は、これまでに説明した通り新原理・原則（絶対概念の導入）にもとづいており、よって従来の学問にはない言葉で書かれているため戸惑いを覚えるであろう。そこで、11観量性理論、従来の学問、ウィキペディア百科事典も共通に使用している「相対速度」に的を絞り、従来の学問の問題点（間違い）を炙り出すことにする。

さて、議論（相対速度）のお膳立てとして、ウィキペディア百科事典がブリタニカ国際大百科事典（従来の学問）を引用し、その評価（…不十分です…）したものを次に取りあげておく。

※ウィキペディア百科事典における「相対速度」の検索内容

https://ja.wikipedia.org/wiki/相対速度

>>ある運動物体から見た他の運動物体の速度。たとえば，路上の人から見た自動車
>>の速度をv_1，新幹線列車の速度をv_2とするならば，自動車に対する列車の相対速
>>度はv_2-v_1である。速度や運動は元来何かを基準にしたもので，すべて相対的で
>>ある。
> この記事は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。出
> 典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。

と表記している（>>の箇所はブリタニカ国際大百科事典の解説）。

それでは、上記のウィキペディア百科事典の引用文にある**ブリタニカ国際大百科事典の「相対速度」の間違い**の証明から始めよう。

＊ブリタニカの問題①

自動車（議論一般化の際は物体Ａと呼ぶ）と新幹線列車（物体Ｂと呼ぶ）との関係を「相対速度」としている。そうすると、路上の人（物体Ｏと呼ぶ）に対する自動車（物体Ａ）と、新幹線列車（物体Ｂ）との関係速度は何と呼ぶのであろうか…？

＊ブリタニカの問題②

ところで、船（物体Ｃと呼ぶ）を考えてみる。この船（物体Ｃ）の設定を否定する理由は全くない筈である。もし、この船（物体Ｃ）の設定を否定するならば、予め設定した自動車（物体Ａ）と新幹線列車（物体Ｂ）の二つに限定した原理的理由を述べなければならない。従って、船（物体Ｃ）を設定すれば、物体Ａと物体Ｂ、物体Ｂと物体Ｃ、物体Ｃと物体Ａ、の三つの相対速度が記述されることになってしまうのだが…？

＊ブリタニカの問題③

ブリタニカ国際大百科事典の解説をみる。地球は公転・自転運動していることを踏まえ、赤道付近の路上の人（物体Ｄ）や南と北の極地点に立っている人（物体Ｅ）を考えてみれば、その関係も相対速度で記述することに

なるのか、という問題が浮上してくる。ちなみに、地球の赤道付近の自転速度は時速約１７００ｋｍである（音の速さは時速約1235km）。

という事実によれば、従来の教育の間違いは明らかである。

次に、**ウィキペディア百科事典の「相対速度」の問題点**を明らかにしておく。そこで、学問の会が図式を交えて新原理・原則に基づく「相対速度」の解説を行ってきたことを確認しておく。

「相対速度」についてウィキペディア百科事典は、

＞この記事は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。出
＞典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。

とのテンプレート（駄目出し）を張りつけているのだが、その理由、証明、反証などは全く提示していない。すなわち、学術論争で「…不十分…」の評価は通用しないというわけである（後に特別ページを設けて詳しく議論することにする）。

M＆N数論

ところで、物理理論は数学と表裏一体（量的表記）となる為、あらかじめ数の本質について述べておく必要がある。

驚くべきは、世界共通の概念・認識、特に「数」は言語や文化や地域が違っていても、また家庭の主婦や子供達でさえも日々と云わず時々刻々、数を自在に使いこなしている事実である。ここで良く考えてみれば、数には、極単純な原理が潜んでいるという示唆が読み取れる。

◇数の本質

数の原理的本質を述べる前に、数学の出発点（１＋１＝□）を考察しておくことにする。一般に１＋１＝２とされているが、まれに１＋１は何故２と決まっているのか…？と質問する者もなくはない。そこで、この質問を、

Ａ氏 ―― １＋１＝２
Ｂ氏 ―― １＋１＝３や６ではいけないのか？

と書き並べてみる。ここで注意せよ。「＝」は左辺と右辺は必ず等しいことを意味する記号である（然もなければ数学の崩壊）。すると、Ａ氏とＢ氏の＝の使い方が互いに違っているのは一目瞭然。かかる事態に陥っているのは、数の原理的本質が明確になっていないことが原因である。この数の原理的本質の議論については、記号を使う論理式や代数式などの出る幕でないことは自明である。

それでは、数の原理的本質の課題に入ることにしよう。【１を数の絶対値（数列の原理）と定める】ことにする。そうすれば、各数の原理的本質は先ず、

＊絶対値１は数１、そして絶対値１＋絶対値１は数２、

である。その後は同様、

＊１＋１＋１＝３、 ～ 、１＋１＋１＋１＋１＋１＋１＋１＋１＝９

である。但し、「数列の原理（数の本質）」は、数を覚える訓練によって消滅していることに注意せよ。それから、

＊１－１＝０

である。すなわち、【０は値の無い数】であり、下記の、

＊０、　１、　２、　３、　４、　５、　６、　７、　８、　９

【各数の間隔の一定性の保証】による０～９の十個の数列が形成される。更に、

＊10、　11、　12、　13、　14、　15、　16、　17、　18、　19

という具合の節目および、10、100、1000、10000、～といった具合に次々と大きな節目が形成され、これが十進法や位取りの原理なのである。

上記の如く、絶対値１の加減に基づく整然とした数列が形成される。つまり「各数の間隔の一定性、思考への順序の刻み、各数の固有性が一度に満たされる」のである。そして、この数列は思考上のことであり、無限連鎖が見込まれる。

特別ページ

本事件は、子どもの権利条約および世界中の子どもに対する洗脳教育、すなわち人類の先行きを左右する問題である。従って、対応するにあたり、各分野における立場のある者達には大きな責任が伴うことを心にとめおかれよ。強調しておく。

【人間がつくった規則や法律は、
宇宙の仕組み（ここでは原理・原則）を決して凌駕できないことである】

そして、［11観量性理論］の著作権を２０１９年９月１７日に解放してから２年以上の日時が経過し、様々な事柄があったが、簡単にまとめなおしておく。

◯ Wikimedia Foundationの資金集めのカラクリ

※Wikimedia Foundationの検証可能性

https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:検証可能性

＞ ウィキペディアに執筆してよいかどうかの**基準**は「真実であるかどうか」ではな
＞ く「検証可能かどうか」です。つまり、私たちがウィキペディアで提供するのは
＞ 信頼できるソース（情報源）を参照することにより「検証できる」内容だけだと
＞ いうことです。
＞ …。
＞ 方針１．記事には、信頼できる情報源が公表・出版している内容だけを書くべき
＞ です。
＞ ２．記事に新しい内容を加筆するときは、信頼できる情報源―出典（参考文
＞ 献）―を明らかにすべきです。出典が明示されていない編集は、誰でも
＞ 取り除くことができます（出典のない記述は除去されても文句は言えま
＞ せん）。
＞ ３．出典を示す義務を負うのは、書き加えようとする側であり、除去を求め
＞ る側ではありません。…。

によれば、

例題１．ウィキペディアに執筆してよいかどうかの基準は、「正しいかどうか」ではなく「検証可能かどうか」です。

も同様に成り立つ。また、

２．ウィキペディアに執筆してよいかどうかの基準は、「証明できるかどうか」ではなく「検証可能かどうか」です。

も同様に成り立つ。また、

３．ウィキペディアに執筆してよいかどうかの基準は、「反証できるかどうか」ではなく「検証可能かどうか」です。

も同様に成り立つ。従って、

４．ウィキペディアに執筆してよいかどうかの基準は、「事実かどうか」ではなく「検証可能かどうか」です。

５．ウィキペディアに執筆してよいかどうかの基準は、「再実験できるかどうか」ではなく「検証可能かどうか」です。

６．～

の如く、どの様な事柄に対しても成り立つ。よって、この「検証可能性は基本条件とはなりえない」という結論に到達する（2017年4月23日）。つまり、以下に述べる問題が生じてくるのである。

問題①：

４～６頁の**11観量性理論vsブリタニカ国際大百科事典vsウィキペディア百科事典**に再度目を通せ。そこでは、Wikimedia Foundationは、コトバンクの**相対速度**の解説に対して「…不十分です…」とのテンプレート（駄目出し）を張り付けているが、その十分な理由を提示していない。Wikimedia Foundationは自身の基本方針（検証可能性の方針３）の義務を果たせ。

※Wikipedia:中立的な観点

https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:中立的な観点

> …。
> これは、すべての記事は特定の観点に偏らずあらゆる観点からの描写を平等に扱
> い、中立的な観点に沿って書かれていなければならない、というものです。この
> 方針は記事以外のテンプレート、ポータルなどにも適用されます。ウィキペディ
> アの創始者ジミー・ウェールズの言葉によれば、中立的な観点は「絶対的で交渉
> の余地のないもの」です。…ウィキペディアの狙いは論争を記述することであり
> 論争に加わることではありません。…。

と断言している。

問題②：

Wikimedia Foundationは、「ウィキペディアの狙いは論争を記述することであり、論争に加わることではありません」と断言しているが、ここにカラクリがある。つまり、各テンプレート（駄目出し）は論争の仕掛けに他なく、これに拠って「皆で世界一の百科事典を作ろう」と呼びかけて資金集めをしているのである。

問題③：

学問の会は「相対速度」について、新原理・原則に基づく解説を行っている。従って、理由なきWikimedia Foundationのテンプレート（駄目出し）を張り付けても百科事典としての価値は全くない。更に、冒頭のグーグルの評価（検索結果）を合わせて考えてみれば、今や学問の会のＨＰは歴然とした文献である。つまり、「学問の会を差別扱いしているのであって、中立的な観点に反する」というわけである。

※Wikipedia:独自研究は載せない

https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:独自研究は載せない

> …独自研究とは、信頼できる媒体において未だ発表されたことがないものを指す

> ウィキペディア用語です。…。
> 情報源を明記することと独自研究を避けることは、密接に関わり合っています。
> 独自研究ではないことを示す唯一の方法は、その記事の主題に直接関連のある情
> 報を提供している信頼できる資料を参考文献として記し、その資料に記された内
> 容に忠実に記述することです。
と定めている。ところで、
※ウィキペディア百科事典で「相対速度」を再検索
https://ja.wikipedia.org/wiki/相対速度
>>…。
> この記事は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。出
> 典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。
とのテンプレート（駄目出し）を張り付けている。

問題④：

ウィキペディア百科事典は引用文の通り、「…出典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください」と要請しているが、Wikimedia Foundationはほとんどの文献を集めている筈である。もし、Wikimedia Foundationが知らない文献などを提出しても、それは必然的に採用できないことになる。何故ならば、その採用はWikimedia Foundationの基本方針の「検証可能性」に反するからである。また、この矛盾は「…新規作成しましょう…」とのテンプレート（駄目出し）の張り付けについても言える。

問題⑤：

学問の会の「相対速度」の内容は、幾つかの新しい原理・原則に基づいて構成されており、この内容は独自研究に他ならない。ここで注意せよ。速度の比較は日常といわず時々刻々、Wikimedia Foundationの面々も使っている経験事実である。つまり、Wikimedia Foundationの「独自研究は載せない」に反する。更に重要なのは、「独自研究は載せない」は「学問の発展の妨害」となることである。勿論、「子どもの権利条約（国連）の反古および世界中の子どもに対する洗脳教育の続行に加担する」ことになる。

以上、問題①～問題⑤の通り、Wikimedia Foundationの資金集めは不当であり、学問の会に対する挑戦に他ならない。更に、基本方針の「中立的な観点」に基づけば「学問の会を差別扱いしている」になるのは間違いない。よって、「**Wikimedia Foundationには著作権を解放しない**」ことにする。なお、この暴露記事や11観量性理論の内容に不服があれば「Wikimedia Foundationは各テンプレート（駄目出し）を張り付けている十分な理由を２０２０年１０月１日までに公表せよ」。さもなければ、次の通り確定する。

【Wikimedia Foundationは学問の会が新たに提唱した
幾つかの原理・原則（関連事項を含む）を盗用したことを認めた】

◯ Wikimedia Foundationの反論(らしき?!記事)について

２０２０年９月３０日、いつもの様にグーグルやYahoo! JAPANで「世界規模の間違い」を検索したが見つからなかった。しかし、以下の言語が異なる世界の主要な検索サイトで日本語による【世界規模の間違い】を調べてみた。

［北・中・南アメリカ］

＊MSN Canada https://www.msn.com/en-ca
＊Yahoo Search https://search.yahoo.com/
＊bing https://www.bing.com/
＊Microsoft Bing https://www.bing.com/?setmkt=en-us&setlang=en-us
＊Yahoo! https://www.yahoo.com/
＊https://espanol.yahoo.com/
＊https://www.msn.com/es-mx/
＊https://www.msn.com/pt-br

［ヨーロッパ］

＊https://uk.yahoo.com/
＊https://www.msn.com/en-gb
＊https://fr.yahoo.com/
＊https://www.msn.com/fr-fr
＊https://it.yahoo.com/
＊https://www.msn.com/it-IT/
＊https://de.yahoo.com/
＊https://www.msn.com/de-de
＊https://es.yahoo.com/
＊https://www.msn.com/es-es
＊Yahoo Zoeken https://nl.search.yahoo.com/
＊https://www.msn.com/nl-nl/
＊https://se.yahoo.com/
＊Nya MSN Sverige https://www.msn.com/sv-SE/

［アジア］

＊Yahoo雅虎香港 https://hk.yahoo.com/
＊https://www.msn.com/zh-hk
＊Yahoo奇摩 https://tw.yahoo.com/
＊https://www.msn.com/zh-tw
＊https://www.msn.com/en-in
＊https://in.yahoo.com/

［オセアニア］

＊https://www.nine.com.au/

＊https://nz.yahoo.com/
上記のどの検索サイトにおいても学問の会の【世界規模の間違い】が一番に取りあげられていた。
　ここで、グーグルとYahoo! JAPANは何故、学問の会のホームページを抹殺したのか？その原因を繰り返し調べたが、全く分からなかった。また、翌日（10月01日）を期限としているWikimedia Foundationが盗用した著作権の問題に関する回答や反論なども探したが、矢張り見つけられなかった。そこで、学問の会はウィキメディアの各記事を虱潰しに調べた結果、夜中頃ようやく下記の反論らしき記事を見つけたのである。

◇Wikimedia Foundationの反論とグーグルおよびYahoo! JAPANの対応
※Wikipedia - ノート:信頼できる情報源
https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia - ノート:信頼できる情報源
> 目次（６番目の記事）　「存命人物の伝記」節の改訂を提案します
> 「存命人物の伝記」のセクションにおける「存命中の人物の項目中で、その人物
> に関する批判、否定、あるいは有害と解釈できる情報が掲載された場合にはすぐ
> に取り除くべきであり、ノートページに移動してもいけません。」との一文に関
> してですが、誘導先ページである**Wikipedia:存命人物の伝記**に記された指針と**相
> 当の齟齬があります**（この点が元で実際にトラブルも生じています）。編集者に
> それ相応の注意を促す意図はあろうとはいえこの書き方ではあまりに大雑把です
> し、元は黎明期の英語版からの移入された条文のようですが今となっては英語版
> の方も既に改訂されており、ウィキメディア全体からしても一般的とは言えない
> ようです。またこの箇所において否定的な記述同様にプライバシーに関する記述
> に関しても注意を促す必要はあると考えますし、同時に「実在の人物が、あなた
> の言葉で傷付く」といった曖昧な言葉選びから、もう少し具体的に実在の人物の
> 名誉や権利、加えてウィキメディア財団全体にとってのリスク等等の観点も盛り
> 込んだ方が良いかと存じます。以上の点を踏まえ、掲載の内容を以下のように改
> 訂する事を提案させて頂きます。
> ・（改訂前）存命中の人物の項目中で、その人物に関する批判、否定、あるいは
> 有害と解釈できる情報が掲載された場合にはすぐに取り除くべきであり、ノート
> ページに移動してもいけません。他の記事の、存命の人物に関する記述を含んだ
> 節についても同じです。実在の人物~~が巻き込まれ、あなたの言葉で傷つく可能性
> がありま す~~。私達は雑誌の記述活動をしているのではありません。私達は百科事
> 典を作っているのです。
> ・（改訂後）存命中の人物の項目中で、その人物に関する批判、否定、あるいは
> 有害と解釈できる情報の掲載<u>には強い注意を払って下さい。特に信頼できる情報
> 源に基づかない否定的な情報やプライバシーに関わる情報の掲載は絶対に行って
> はいけませんし、そうした性質の情報のうち参考文献や出典のない、あるいは貧</u>

> 弱な情報源しか存在しないものはすぐに取り除くべきであり、ノートページに移
> 動してもいけません。他の記事やページの、存命の人物に関する記述を含んだ箇
> 所についても同じです。実在の人物の名誉や権利が侵害され、加えて掲載したユ
> ーザーのみならずウィキメディア財団全体にまで法的なリスクが波及する可能性
> があります。私達は雑誌の記述活動をしているのではありません。私達は百科事
> 典を作っているのです。
> --Miraburu（会話 / 投稿記録） 2020年9月15日（火）14:38（UTC）
> ✔ 済 実施いたしました。--Miraburu（会話 / 投稿記録） 2020年9月26日（土）
> 02:21（UTC）
> 最終更新 2020年9月26日（土）02:21 （日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

上記のWikimedia Foundationの引用文によれば、学問の会のホームページの内容が不法な誹謗・中傷などに相当し、よってインターネット上（法的）に掲載されるべきではないという主張である。このことは、かかる引用文の終盤（…✔ 済 実施いたしました。…）の記述によって明らかである。なお、Wikimedia Foundationの膨大な資料の中からこの記事を探し出すのは学問の会にとって極めて困難である。お互いの不利益を避ける意味においても、反論や不服などは下記の、

※Googleグループのfj.sci.physics

https://groups.google.com/d/topic/fj.sci.physics/mYmDNtmmnYM/discussion

に書き込まれたい。これは世界の人々に対する契約である（皆で世界一の百科事典をつくろう、と呼びかけて資金を集めているからだ）。

上のWikimedia Foundationの主張に呼応し、グーグルとYahoo! JAPANは学問の会のホームページを抹殺したと考えられる（2020年9月30日頃）。

蛇足を付け加えておこう。上記の謀すなわち、学問の会のホームページさえ抹殺してしまえば「著作権盗用という法的な問題も消滅する」とでも考えているのであろうか!?

◇学問の会の反論とグーグルおよびYahoo! JAPANの対応

学問の会のホームページはWikimedia Foundationの主張（法的）に基づき、グーグルとYahoo! JAPANのサイトから抹殺されてしまった。ここで注意せよ。特別ページの序の「子どもの権利条約および世界中の子どもに対する洗脳教育」と「人間がつくった規則や法律は、宇宙の仕組み（ここでは原理・原則）を決して凌駕できないことである」を見直せ。すると、この権威・権力（社会的立場の強い者達）の悪辣なやり方が誰にでも分かるであろう。より厳しくは、「誹謗・中傷だ」と騒ぐ前に、その原因は「子どもの権利条約の無視、子ども達に対する洗脳教育の続行、学問の発展の妨害、著作権盗用、宇宙の仕組みの破壊（新原理・原則の抹殺）、弾圧や差別、～」である。すなわち、学問の会のホームページの内容は、事実無根の誹謗・中傷ではなく、立場のある者達の不法な弾圧や差別などに対する非難・罵倒である。

この学問の会の反論の意味に気づいたグーグルおよびYahoo! JAPANは再び【世界規模の間違い】の記事を復活した（学問の会のＨＰは法的権限により抹殺したが、約三日後に取り下げた）のである。

◯ Wikimedia Foundation（関連機関を含む）は告発の対象

※Wikipedia:検証可能性（再度検索すること）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:検証可能性
> …。
> 方針１．…。
>　　２．…。
>　　３．出典を示す義務を負うのは、書き加えようとする側であり、除去を求め
>　　る側ではありません。…。

とともに、先に引用した、

※Wikipedia - ノート:信頼できる情報源（再度検索すること）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia - ノート:信頼できる情報源
> …。
>　　……、あるいは貧
> 弱な情報源しか存在しないもの……。
>　　……の名誉や権利が侵害され、加えて掲載したユ
> ーザーのみならずウィキメディア財団全体にまで法的なリスクが波及する可能性
> があります。……。

上記の二つの引用文に注目せよ。Wikimedia Foundationは「著作権盗用」の問題を解決せず、「学問の会のＨＰ抹殺」という悪辣な策略をめぐらした。この極めて悪辣な策略に対し、学問の会は次の返礼（更なる暴露）をすることにする。

◇学問の会の返礼!!!

＊Wikimedia Foundationの義務（その１）
　「貧弱な情報源」との言明がある。よって、その「情報源」を明らかにしなければならない。
＊Wikimedia Foundationの義務（その２）
　「貧弱な」の意味（理由）を明確にしなければならない。
＊Wikimedia Foundationの義務（その３）
　各テンプレート（駄目出し）の情報源を明確にしなければならない。

というところで、学問の会の返礼（更なる暴露）を証しておく。

＊Wikimedia Foundationの義務（その４）
　数年前から巻末に設けておいた［付録］の各項目に張り付けたテンプレート（駄目出し）についても同様、その理由の説明の義務を負わなければな

らない。
というわけである。もし、上記の各義務を履行しなければ、必然的に「Wikimedia Foundationは**告発**の対象となる」。付け加えておけば、理由なきテンプレート（駄目出し）の張りつけこそ他社に対する誹謗・中傷に他なく、各事業者に損害を与えているのである。しかも、Wikimedia Foundationは米国の庇護（世界中から掻き集めた多額の寄付金の免税など）を受けていることが大問題である。

◇“Wikimedia Foundation（関連機関を含む）は告発の対象”の記事の評価
※Yahoo! JAPAN（2020年12月19日現在）
https://search.yahoo.co.jp/search?p=”Wikimedia+Foundation(関連機関を含む)は告発の対象”&fr=top_ga1_sa&ei=UTF-8&ts=60312&aq=-1&oq=&at=&ai=a10dbb55-dacd-4609-bce4-cf413392c2d5
で“Wikimedia Foundation（関連機関を含む）は告発の対象”を調べると、
※Wikimedia Foundationは告発の対象 - 2NN
http://www.2nn.jp/test/read.cgi/refuge/1608005655/1-n
> ■ Wikimedia Foundationは告発の対象
> 1 名前：長屋修：2020/12/15(火) 13:14:15 ID:FVhblaYr0
> グーグルやヤフーで「Wikimedia Foundation（関連機関を含む）は告発の対象」
> を検索してみてください。すると［観量性理論（12頁後半）］に説明が載ってい
> ます。
> これにより、教育（学問など）が大きな影響を受けることになります。
また、
※Wikimedia Foundationは告発の対象 - 2NN 2ちゃんねる ニュース速報＋ナビ
https://www.2nn.jp/refuge/1608005655/
> ★避難所 12/15 13:14 1res 平均投稿時速：0.0res/h 対板現在投稿率：0.0%
> 2NNのURL Twitter
> Wikimedia Foundationは告発の対象
> グーグルやヤフーで「Wikimedia Foundation(関連機関を含む)は告発の対象」
> を検索してみてください。すると［観量性理論(12頁後半)］に説明が載ってい
> ます。これにより、教育(学問など)が大きな影響を受けることになります。
に案内され、更に、
※11観量性理論 - 世界規模の間違い
http://st-nagaya.jp/j5.pdf
> 2020/09/26 - ◇Wikimedia Foundation（関連機関を含む）は告発の対象!!
> Wikimedia Foundationは数年前から現時点（2020年12月13日）に至るも、学問
> の会の詰問に対する断りや反論も全くない。逆に、詰問をかわす為、その元に
> なっている学問の会のホームページ（新原理・原則）の抹殺を謀った。
にも案内される。

以上、これ迄に並べ立てた理由による「Wikimedia Foundationは告発の対象」に不服がある場合は、先述のGoogleグループのfj.sci.physicsに書き込むこと（この断りは世界中の人々に向けた契約である）。

それから、かかる告発の件については、学問の会は数年前（2018年11月頃）には既に見抜いており、その意味で、【世界規模の間違い】の巻末に付録を設けておいたのである。しかし、Wikimedia Foundationは勿論、社会的立場のある者（いわばマスコミを含む指導側）は明るい未来に向けて人々を導いてくれると信じていたため本告発の件を学問の会は暴露しなかったのである。

◇告発の暴露による影響（評価）

“Wikimedia Foundation（関連機関を含む）は告発の対象”の暴露後の【世界規模の間違い】の評価を、グーグルとYahoo! JAPANを取り混ぜてみておこう。なお、検索するには時間的なバラツキがあるし、十万件台は四捨五入とする（グーグルはG:で示し、Yahoo! JAPANはY:で示す）。

・…（７千万件台が続く）…

・Y:７千５百万件(2020年12月21日)
・Y:７千４百万件(2020年12月22日)
・Y:８千万件(2020年12月23日)
・G:７千６百万件(2020年12月24日)
・Y:７千４百万件(2020年12月25日)
・G:７千８百万件(2020年12月26日)
・Y:７千７百万件(2020年12月27日)
・Y:７千７百万件(2020年12月28日)
・G:８千５百万件(2020年12月29日)
・Y:９千１百万件(2020年12月30日)
・G:８千６百万件(2020年12月31日)
・G:９千１百万件(2021年1月1日)
・G:９千４百万件(2021年1月2日)
・Y:９千５百万件(2021年1月3日)
・Y:１億８百万件(2021年1月4日)
・Y:１億９百万件(2021年1月5日)
・Y:１億７百万件(2021年1月6日)
・G:１億１千１百万件(2021年1月7日)
・Y:２千７百万件(2021年1月8日)
・G:１億１千１百万件(2021年1月9日)
・G:２千３百万件(2021年1月10日)
・G:１億１千９百万件(2021年1月11日)
・G:１億１千７百万件(2021年1月12日)
・Y:１億１千７百万件(2021年1月13日)
・Y:１億１千３百万件(2021年1月14日)
・G:１億２千万件(2021年1月15日)
・G:１億１千９百万件(2021年1月16日)
・Y:１億２千４百万件(2021年1月17日)
・Y:１億２千８百万件(2021年1月18日)
・Y:１億４千２百万件(2021年1月19日)
・G:１億４千９百万件(2021年1月20日)
・G:１億６千２百万件(2021年1月21日)
・Y:１億６千５百万件(2021年1月22日)
・G:１億７千５百万件(2021年1月23日)
・G:１億８千２百万件(2021年1月24日)
・Y:１億８千３百万件(2021年1月25日)
・Y:１億８千９百万件(2021年1月26日)
・G:１億８千６百万件(2021年1月27日)
・Y:２千４百万件(2021年1月28日)
・G:１億８千１百万件(2021年1月29日)
・G:１億８千３百万件(2021年1月30日)
・Y:１億８千３百万件(2021年1月31日)
・Y:１億８千２百万件(2021年2月1日)
・G:１億８千２百万件(2021年2月2日)
・Y:１億９千７百万件(2021年2月3日)
・Y:１億７千９百万件(2021年2月4日)

・G：１億７千４百万件（2021年2月5日）　・Y：１億７千７百万件（2021年2月6日）
・G：１億８千５百万件（2021年2月7日）　・G：１億８千万件（2021年2月8日）
・Y：１億８千５百万件（2021年2月9日）　・Y：１億８千５百万件（2021年2月10日）
・Y：１億８千１百万件（2021年2月11日）　・G：１億８千３百万件（2021年2月12日）
・Y：１億８千１百万件（2021年2月13日）　・G：１億８千２百万件（2021年2月14日）
・G：１億８千２百万件（2021年2月15日）　・Y：１億８千５百万件（2021年2月16日）
・G：１億８千万件（2021年2月17日）　・Y：１億７千９百万件（2021年2月18日）
・Y：１億７千９百万件（2021年2月19日）　・Y：１億８千万３百件（2021年2月20日）
・Y：１億８千２百万件（2021年2月21日）　・G：１億８千４万百件（2021年2月22日）
・G：１億７千９百万件（2021年2月23日）　・G：１億８千万件（2021年2月24日）
・Y：２千５百万件（2021年2月25日）　・G：１億８千５百万件（2021年2月26日）
・Y：１億８千６百万件（2021年2月27日）　・Y：１億７千８百万件（2021年2月28日）
・Y：１億８千５百万件（2021年3月1日）　・G：１億８千５百万件（2021年3月2日）
・G：１億８千２百万件（2021年3月3日）　・Y：１億８千６百万件（2021年3月4日）
・G：１億９千５百万件（2021年3月5日）　・Y：１億８千７百万件（2021年3月6日）
・Y：１億８千８百万件（2021年3月7日）　・Y：１億９千万件（2021年3月8日）
・G：２億１百万件（2021年3月9日）　・G：１億９千７百万件（2021年3月10日）
・Y：１億９千２百万件（2021年3月11日）　・G：１億９千６百万件（2021年3月12日）
・G：１億９千７百万件（2021年3月13日）　・Y：１億９千８百万件（2021年3月14日）
・G：１億９千６百万件（2021年3月15日）　・Y：１億９千６百万件（2021年3月16日）
・G：１億９千７百万件（2021年3月17日）　・Y：１億９千９百万件（2021年3月18日）
・Y：２億３百万件（2021年3月19日）　・G：２億６百万件（2021年3月20日）
・G：２億９百万件（2021年3月21日）　・G：２億２百万件（2021年3月22日）
・G：２億１千１百万件（2021年3月23日）　・Y：２億１千４百万件（2021年3月24日）
・G：２億１千７百万件（2021年3月25日）　・Y：２億１千１百万件（2021年3月26日）
・G：２億１千３百万件（2021年3月27日）　・G：２億２千万件（2021年3月28日）
・Y：２億１千６百万件（2021年3月29日）　・Y：２億２千６百万件（2021年3月30日）
・G：２億１千９百万件（2021年3月31日）　・Y：２億２千５百万件（2021年4月1日）
・G：２億２千５百万件（2021年4月2日）　・G：２億２千６百万件（2021年4月3日）
・Y：２億２千８百万件（2021年4月4日）　・Y：２億２千６百万件（2021年4月5日）
・Y：２億２千８百万件（2021年4月6日）　・G：２億３千１百万件（2021年4月7日）
・G：２億２千９百万件（2021年4月8日）　・Y：２億２千９百万件（2021年4月9日）
・Y：２億３千２百万件（2021年4月10日）　・Y：２億３千万件（2021年4月11日）
・G：２億３千２百万件（2021年4月12日）　・G：２億３千７百万件（2021年4月13日）
・Y：２億４千万件（2021年4月14日）　・G：２億３千７百万件（2021年4月15日）
・G：２億３千７百万件（2021年4月16日）　・Y：２億３千９百万件（2021年4月17日）
・G：２億３千６百万件（2021年4月18日）　・G：２億３千１百万件（2021年4月19日）
・Y：２億３千５百万件（2021年4月20日）　・Y：２億３千６百万件（2021年4月21日）

・G:２億２千８百万件(2021年4月22日)　・Y:２億３千３百万件(2021年4月23日)
・G:２億３千万件(2021年4月24日)　・Y:２億３千５百万件(2021年4月25日)
・Y:２億４千１百万件(2021年4月26日)　・G:２億３千６百万件(2021年4月27日)
・Y:２億４千６百万件(2021年4月28日)　・G:２億５千１百万件(2021年4月29日)
・G:２億５千８百万件(2021年4月30日)　・Y:２億６千１百万件(2021年5月1日)
・G:２億６千７百万件(2021年5月2日)　・Y:２億５千万件(2021年5月3日)
・G:２億７千万件(2021年5月4日)　・G:２億５千５百万件(2021年5月5日)
・Y:２億６千４百万件(2021年5月6日)　・Y:２億４千７百万件(2021年5月7日)
・G:２億２千４百万件(2021年5月8日)　・Y:２億１千９百万件(2021年5月9日)
・Y:２億１千９百万件(2021年5月10日)　・Y:２億２千５百万件(2021年5月11日)
・G:２億２千２百万件(2021年5月12日)　・Y:２億２千６百万件(2021年5月13日)
・G:２億１千９百万件(2021年5月14日)

と、【世界規模の間違い】の評価が急上昇した。結果、Wikimedia Foundationは問題（著作権盗用、告発の対象、学問の会のＨＰ抹殺の法的権限を取り下げたこと）に関する対処を迫られることになった。そこで、Wikimedia Foundationは、

※Wikimedia Foundation Community Affairs Committee（略称 ＣＡＣ）

＊ウィキメディア財団コミュニティ問題委員会

https://meta.wikimedia.org/wiki/Wikimedia_Foundation_Community_Affairs_Committee

を２０２１年２月２４日に設立し、２０２１年５月１３日１９時(UTC)に最初の営業を始める、と発表した。

ところで２０２１年５月１５日頃、ＣＡＣは学問の会のＨＰを再抹殺するという行為に走った（上記の赤文字の３件の問題を回避する為）。つまり、このＣＡＣの行為は、一度使った権限を取り下げた後に再度使い、Wikimedia Foundationの著作権盗用や告発の対象などを再びうやむやにすることを謀ったものであり、**国際社会に対する背信行為**に他ならない。

強調しておくが、

11 観量性理論の著作権は解放されて今や人類の知的財産となっている

ことを深く心に留め置かれよ。

◯ ウィキペディア百科事典にみる 人間社会に争いが絶えない要因

ウィキペディア百科事典は、あらゆる分野そして権威・権力に臆することなくテンプレート（駄目出し）を張り付けているが、この様な文献は今後、作られることはないであろう（**百科事典の域を越えたWikimedia Foundationの偉業**）。他方、テンプレート（駄目出し）を張り付けられた側は何の反論も出来ない。この両者の相反する状況を考えてみれば**【人間社会に争いが絶えない要因】**の姿が浮かび上がっ

てくる。皆さん（特に学生やマスコミ関係者）は、この「人間社会に争いが絶えない要因」について考え、積極的に論じあわなければならない。
※ウィキペディア百科事典にみる人間社会に争いが絶えない要因（グーグル検索）
> 11 観量性理論へ - 世界規模の間違い
> ◇「ウィキペディア百科事典にみる人間社会に争いが絶えない要因」. ウィキペ
> ディア百科事典は、あらゆる分野そして権威・権力に臆することなく…
※ウィキペディア百科事典にみる人間社会に争いが絶えない要因（Yahoo! JAPANで検索）
> 11 観量性理論へ - 世界規模の間違い
> ◇「ウィキペディア百科事典にみる人間社会に争いが絶えない要因」. ウィキペ
> ディア百科事典は、あらゆる分野そして権威・権力に臆することなく…
ということである。ただし、「Wikimedia Foundationの偉業」とは言っているが、**テンプレート（駄目出し）に関する説明の義務を果たさなければ、そのテンプレート（駄目出し）は幾つかの犯罪行為となる**ことに注意せよ。

◇Ｇ７サミットと子どもの権利条約（人権問題）

※ロイター編集（2021年6月14日）
> ［カービスベイ（英イングランド）　１３日　ロイター］-主要７カ国会議（Ｇ７
> サミット）は１３日、増大する中国の影響力に対抗していくことや…などを約束
> して閉幕した。主要分野における合意内容は次の通り。…
> …
> ＜中国＞
> 声明では中国を名指しした上で、新疆ウイグル自治区の人権問題改善に取り組み
> 香港における高度な自治と自由を尊重するよう求めた。
> …。
と報じた。勿論、中国で起こっている人権問題に関与するからには、Ｇ７は子どもの権利条約の遵守すなわち、世界中の子どもに対する洗脳教育阻止の作業に取り組んでいることであろう。

◇バイデン大統領（米）とプーチン大統領（露）がジュネーブで会談

※日本経済新聞（2021年6月17日　夕刊）
> …。バイデン氏はロシアによる反体制派指導者への人権弾圧を提起し「国際規範
> に沿わない国家運営はロシアに打撃となる」と警告した。
> …。
と報じている。
　ここで、アメリカのバイデン大統領がロシアの人権問題に少し触れただけであったことから察すれば、「子どもの権利条約の無視」「世界中の子どもへの洗脳教育

続行」「学問の発展の妨害」の問題解決に苦慮しているのであろう。しかし、この解決は、人類の明るい未来を約束することになるのである（第三部：世界平和への科学的道）。

◯11観量性理論（二体関係⟺相対速度）の評価

それでは、著作権が解放された11観量性理論の評価をグーグルとYahoo！ JAPANの検索結果にみておく。この際のキーワードは【二体関係】である。何故なら、本文１頁～４頁で導かれた結論の通り、「相対速度」は「二体関係」に帰着するからである（かくして、二体関係を検索すれば11観量性理論に案内される）。

ところで、「二体関係」の検索結果を列挙する前に、ビッグ・ニュースが飛び込んできたので、その紹介を先ず行っておこう。

◇Yahoo！ JAPANが本事件に関する方針を表明!!（2021年8月3日確認）

かねてより、学問の会の長屋修はYahoo!知恵袋の幾つかの質問に対し、従来の学問およびガリレイ、ニュートン、アインシュタインらの考え方の間違いについて回答してきた。それらの回答（証明）に対し、Yahoo！ JAPANは下に収録した特別な表記を掲載したのである（詳細な内容はリンクを埋め込んでおいたからそれぞれ確認されたい）。

※質問者：s_hさん**（2017年2月9日）

＞ アインシュタインはローレンツ収縮の根本的な特徴を理解…

※質問者：watさん**（2017年4月29日）

＞ 相対性理論の質問！　電車がAからBの方向に走ろうとしてます。…

※質問者：kwsさん**（2017年5月14日）

＞ 光速度不変の原理を論破する有志よ出て来たまえ

※質問者：tocさん**（2017年6月27日）

＞ 相対性理論の初心者です、分からないことがあります。…

※質問者：ID非公開さん（2018年2月20日）
> 摩擦力があるとき作用反作用の法則と原理的摩擦力は同じですか？

おめでとうございます！
回答がベストアンサーに選ばれました

※質問者：kat**さん（2018年7月23日）
> この写真のような力士が４つを組むことを作用反作用の法則で…

おめでとうございます！
回答がベストアンサーに選ばれました

※質問者：yukioさん（2019年2月13日）
> すみません、専門分野の方、下記の質問お答えいただいても…

おめでとうございます！
回答がベストアンサーに選ばれました

と、過去に遡って記事（内容）の再評価を行ったものである。この、
Yahoo！JAPANの方針の表明は人類の明るい先行きへ向かっての第一歩を印した
というわけである。

◇「二体関係」の検索

・Y：５億４千１百万件(2021年7月29日)　・G：４億７千６百万件(2021年7月30日)
・G：５億３百万件(2021年7月30日)　・Y：５億５千７百万件(2021年8月1日)
・Y：５億４千百２万件(2021年8月2日)　・G：５億８千万件(2021年8月3日)
・G：５億４千８百万件(2021年8月4日)　・Y：５億２千４百万件(2021年8月5日)
・Y：５億２千４百万件(2021年8月6日)　・G：６億２千２百万件(2021年8月7日)
・G：５億４千４百万件(2021年8月8日)　・Y：６億２百万件(2021年8月9日)
・Y：５億９千４百万件(2021年8月10日)　・G：５億７百万件(2021年8月11日)
・Y：６億６千８百万件(2021年8月12日)　・G：５億７千８百万件(2021年8月13日)
・G：７億５千２百万件(2021年8月14日)　・G：７億１千８百万件(2021年8月15日)
・Y：６億８千３百万件(2021年8月16日)　・Y：６億５千２百万件(2021年8月17日)
・G：６億４千３百万件(2021年8月18日)　・G：６億４千４百万件(2021年8月19日)
・Y：７億４千３百万件(2021年8月20日)　・Y：７億４千４百万件(2021年8月21日)
・Y：６億４千２百万件(2021年8月22日)　・G：７億１千８百万件(2021年8月23日)
・G：６億４千５百万件(2021年8月24日)　・Y：７億７百万件(2021年8月25日)
・G：７億５千９百万件(2021年8月26日)　・G：５億４千８百万件(2021年8月27日)
・Y：６億８千１百万件(2021年8月28日)　・G：６億６千１百万件(2021年8月29日)
・Y：５億９千２百万件(2021年8月30日)　・G：６億６千２百万件(2021年8月31日)
・G：７億１千３百万件(2021年9月1日)　・Y：７億１千１百万件(2021年9月2日)

・Y：７億８百万件（2021年9月3日）
・G：６億３百万件（2021年9月4日）
・Y：７億３百万件（2021年9月5日）
・Y：６億５千１百万件（2021年9月6日）
・G：６億５千４百万件（2021年9月7日）
・G：６億３千９百万件（2021年9月8日）
・Y：５億７千５百万件（2021年9月9日）
・Y：５億９千８百万件（2021年9月10日）
・G：７億２千万件（2021年9月11日）
・Y：６億件（2021年9月12日）
・G：６億６百万件（2021年9月13日）
・G：７億３千６百万件（2021年9月14日）
・Y：６億８千万件（2021年9月15日）
・Y：７億２千１百万件（2021年9月16日）
・Y：７億５百万件（2021年9月17日）
・G：６億８千５百万件（2021年9月18日）
・Y：６億５百万件（2021年9月19日）
・Y：６億８千５百万件（2021年9月20日）
・G：６億８千７百万件（2021年9月21日）
・Y：７億２千万件（2021年9月22日）
・Y：７億４千万件（2021年9月23日）
・G：６億５千１百万件（2021年9月24日）
・G：６億３千２百万件（2021年9月25日）
・Y：６億１千９百万件（2021年9月26日）
・G：６億１千万件（2021年9月27日）
・Y：６億９千３百万件（2021年9月28日）
・Y：６億６千８百万件（2021年9月29日）
・G：６億７千２万件（2021年9月30日）
・G：６億８千３百万件（2021年10月1日）
・Y：６億５千８百万件（2021年10月2日）
・Y：５億４千８百万件（2021年10月3日）
・G：５億３千９百万件（2021年10月4日）
・Y：５億６千２百万件（2021年10月5日）
・Y：４億５千７百万件（2021年10月6日）
・G：４億３千６百万件（2021年10月7日）
・Y：５億６千５百万件（2021年10月8日）
・G：５億９千８百万件（2021年10月9日）
・Y：６億１千２百万件（2021年10月10日）
・Y：７億１千８百万件（2021年10月11日）
・G：６億１千万件（2021年10月12日）
・G：６億５千８百万件（2021年10月13日）
・Y：５億７千３百万件（2021年10月14日）
・G：５億２千９百万件（2021年10月15日）
・Y：６億５千９百万件（2021年10月16日）
・G：４億８千３百万件（2021年10月17日）
・G：６億３千８百万件（2021年10月18日）
・Y：６億１千７百万件（2021年10月19日）
・Y：４億２千５万件（2021年10月20日）
・G：４億６千６百万件（2021年10月21日）
・Y：４億５千万件（2021年10月22日）
・Y：３億９千８百万件（2021年10月23日）
・G：４億１千７百万件（2021年10月24日）
・Y：４億２千９百万件（2021年10月25日）
・G：４億２千７万件（2021年10月26日）
・G：５億４百万件（2021年10月27日）
・Y：５億１千２百万件（2021年10月28日）
・G：５億９百万件（2021年10月29日）
・Y：６億１千７百万件（2021年10月30日）
・Y：５億８千６百万件（2021年10月31日）
・G：５億４千３百万件（2021年11月1日）
・Y：１２億５千万件（2021年11月2日）
・G：１１億７千万件（2021年11月3日）
・Y：１１億７千万件（2021年11月4日）
・Y：１１億５千万件（2021年11月5日）
・G：１１億３千万件（2021年11月6日）
・G：１１億６千万件（2021年11月7日）
・Y：１１億５千万件（2021年11月8日）
・Y：１１億２千万件（2021年11月9日）
・G：１２億件（2021年11月10日）
・Y：１１億１千万件（2021年11月11日）
・G：１１億４千万件（2021年11月12日）
・G：１１億５千万件（2021年11月13日）
・G：１１億件（2021年11月14日）
・Y：１１億３千万件（2021年11月15日）
・Y：１０億５千万件（2021年11月16日）
・Y：１０億９千万件（2021年11月17日）

・G:１０億８千万件(2021年11月18日)　・G:１１億６千万件(2021年11月19日)
・Y:１０億６千万件(2021年11月20日)　・G:１１億２千万件(2021年11月21日)
・Y:１２億件(2021年11月22日)　・Y:１１億４千万件(2021年11月23日)
・G:１１億件(2021年11月24日)　・G:１０億１千万件(2021年11月25日)
・Y:１０億５千万件(2021年11月26日)　・G:１０億４千万件(2021年11月27日)

という具合に検索件数が急増している原因を考えよ。１８頁の事実関係、すなわちWikimedia Foundation（ＣＡＣを始め関連機関）は「著作権盗用、告発の対象、法的権限の行使で学問の会のＨＰ抹殺を自ら取り下げた後に再度この法的権限を行使したこと」の世界規模の大罪を犯しながら、それを御座なりにしているからである（己の言動に対する責任・義務を果たさなければ、ますます厳しい非難・罵倒に晒されよう）。

【指導的立場にある者は事態をこれ以上悪化させないこと】

と警告しておくとともに、次の提言を行っておこう。

小学一年生の教科書には、まず「速さくらべをするときはゴール（速度基準）を一つに限定しなければならない」ということを書いておかなければならない。また「その理由は難しいので進級するにつれて習っていくことになります」と言っておけばよいであろう（学問の体系が変わるため分からないことが続出し、よって当面の混乱は避けられない）。

付け加えである。11観量性理論を理解できたならば（反証できなければ）直ちにガリレイの相対性原理やアインシュタインの相対性理論は言うまでもなく従来の学問の基礎が木っ端微塵になってしまうことが分かるであろう。当然ながら、新たな理論も出現してくる。［**10思考と時間の正体**］［**12物理法則の不変基礎**］もその例にすぎない。

◯ウィキペディアが基本方針を破棄(自認)

Wikimedia Foundation（ウィペディア百科事典を始め関連機関を含む）は、次の「検証可能性（三つの方針）」を破棄した模様である。

※検証可能性：

> 検証可能性は、ウィキペディアの内容に関する三大方針の一つです。あとの二つ
> は、「Wikipedia:中立的な観点」と、「Wikipedia:独自研究は載せない」です。
> ウィキペディアではこれらの方針を併せて標準名前空間、つまり記事に書くこと
> ができる情報の種類と質を決定しています。これら三つの方針は相互に補完しあ
> うものであり、それらをばらばらに切り離して解釈すべきではありません。編集
> 者はこれら三つの方針を併せて理解するよう努めてください。この三方針は議論
> の余地がないものであり、他のガイドラインや利用者同士での合意によって覆さ
> れるものではありません。

> 方針
> 　１．記事には、信頼できる情報源が公表・出版している内容だけを書くべきで
> 　　す。
> 　２．記事に新しい内容を加筆するときには、信頼できる情報源―出典（参考文
> 　　献）―を明らかにすべきです。出典が明示されていない編集は、誰でも取
> 　　り除くことができます（出典のない記述は除去をされても文句は言えませ
> 　　ん）。
> 　３．出典を示す義務を負うのは、書き加えようとする側であり、除去を求める
> 　　る側ではありません。

　それでは、上記の「検証可能性」の「方針１．記事には、信頼できる…」「方針２．記事に新しい内容…」「方針３．出典を示す義務…」を、ウィキペディア百科事典で検索し、状況を確認してみよう。

※方針１

https://ja.wikipedia.org/w/index.php?search=方針1.記事には、信頼できる情報源が公表・出版している内容だけを書くべきです&title=特別%3A検索&go=表示&ns0=1

> 特別ページ
> 検索結果
> このウィキでページ「方針1.記事には、信頼できる情報源が公表・出版している
> 内容だけを書くべきです」は見つかりませんでした。

※方針２

https://ja.wikipedia.org/w/index.php?search=方針2.記事に新しい内容を加筆するときは、信頼できる情報源―出典（参考文献）―を明らかにすべきです&title=特別%3A検索&go=表示&ns0=1

> 特別ページ
> 検索結果
> このウィキでページ「方針2.記事に新しい内容を加筆するときは、信頼できる情
> 報源―出典（参考文献）―を明らかにすべきです」は見つかりませんでした。

※方針３

https://ja.wikipedia.org/w/index.php?search=方針3.出典を示す義務を負うのは、書き加えようとする側であり、除去を求める側ではありません&title=特別%3A検索&go=表示&ns0=1

> 特別ページ
> 検索結果
> このウィキでページ「方針3.出典を示す義務を負うのは、書き加えようとする側
> であり、除去を求める側ではありません」は見つかりませんでした。

との発表であり、「**※Wikipedia:中立的な観点**」「**※Wikipedia:独自研究は載せな**

い」の基本方針も同様に破棄されている。その代わりとして以下の「人権方針」をもちだしたのである。

※Human Rights Policy（人権方針）

https://foundation.wikimedia.org/wiki/Policy:Human_Rights_Policy

> このポリシーは、ウィキメディア財団理事会によって承認されています。
> ウィキメディア財団の役員やスタッフ、またはウィキメディアプロジェクトの地
> 域の方針によって、回避、侵食、無視されることはありません。このポリシーは
> ２０２１年１２月８日にウィキメディア財団理事会によって承認されました。
> 序章
> ウィキメディア・ムーブメントのビジョンは、すべての人間がすべての知識の合
> 計を自由に共有できる世界であり、人権に依存し、それを可能にします。そのビ
> ジョンが繁栄するためには、人々は情報を自由に探し、受け取り、伝えることが
> できなければなりません。従って、ウィキメディアの自由な知識プロジェクトは
> 世界人権宣言の第１９条に定められている表現の自由に対する人権に依存してお
> り、「あらゆるメディアを通じて、フロンティアに関係なく、情報やアイデアを
> 求め、受け取り、伝える権利も認めています。」 ……。

という内容である。すなわち、「世界人権宣言の第１９条」を“盾”とし、

「Wikimedia Foundationは、著作権盗用、告発の対象、法的権限の行使で
　　学問の会のＨＰ抹殺を自ら取り下げた後に再度この法的権限を行使した罪」

から逃れんとしているが、抗いも三度目に至っては許し難い。しかも、その“盾”自体が無意味であることを、次に証しておこう。

◯子どもの人権を踏みにじってまで保身に走る権威・権力者

情報は瞬時に世界を駆け巡り、物流も格段に速くなっている現代、「**社会**」と言えば国際社会を意味する。又、「**学問（特に原理・原則＝宇宙の仕組み）**」は世界共通であるからである。

さて、［１欠陥教育の証明］は２００８年に岐阜県教育委員会の要請に応じ、学問の会（責任者長屋修）が提供したものである。ところが「**１欠陥教育の証明は絶対概念の導入となる**」ため、教育委員会は従来の学問の出発点かつ基盤がひっくり返ってしまうことに気付いたのである。ちなみに、この議論は【第三部：世界平和への科学的道】で詳しく扱うが、“日本が火元になっている本事件”の論点を簡単にまとめておく。

◇子どもの人権を踏みにじる権威・権力者

それでは、学校で学問を修得しようとする子どもの人権を、権威・権力者が犯しているという深淵な事件（子どもの権利条約と権威・権力者の間の致命的な問題）が生じていることを証そう。また、本事件についてマスコミ関係者（Yahoo!知恵袋

を除く）はどの様な扱いをしているのか、を明確にすることにする。

論点あるいは注意事項である。ここでは、貧困家庭、少子化、そして子どもへの体罰、いじめ、自殺などの問題を扱うのではない。その様な問題は現行法の整理や強化によって片付くからである。つまり、

「宇宙の仕組みの下における新たな世界観」

という人間としての根元的な課題に踏み込むことが、本論の目的である（軍事力をうわまわる新たな世界観＝思考の危険性に関する議論）。

①日本国憲法：第三章 第二十六条

＞〇２すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に
＞普通教育を受けさせる義務を負ふ。　…。

に定められている通り、一般大衆も、権威・権力者も区別なく、この教育の義務を負うというわけである。また、学校教育は小学一年から始められるのである（義務教育）。

②文部科学省：教育基本法 第一条（教育の目的）

https://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/mext_00003.html

＞我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な
＞国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に…
＞第一条　教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会
＞の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期
＞して行われなければならない。
＞…。

と定めている。ここで「…人格の完成を目指し…」の文言に注目せよ。人それぞれ考え方が違うし、学問や表現の自由もある為、争いも生じてくる。当然ながら“人格の完成は絵に描いた餅”。ところで、学問の会は、いわば普遍的な人格の形成（第三部：世界平和への科学的道）を提唱するものである。言い換えば、宇宙の仕組みの下における新たな世界観（絶対概念の導入）であり、以下の③④⑤⑥においてその証明をすることにする。

③自動車レースや競馬などではゴールを一つにしなければならないことは小学一年以前の子どもでも知っている。勿論、権威・権力者にしても、このことは経験事実として知っている（自身が証人）。ところが、従来の学問では、速さ比べをする際のゴールは一つに限定しなくてもよい、という教えになっている（相対性原理を規範とする学問体系）。言い換えれば、権威・権力者は自身の経験事実を否定する教育、つまりウソと知りつつもその教育を続行しているのである。

④子ども（小学一年生）は無垢で学術的に無知である。また、家庭（一般大衆のこと）では、子どもに学術を教えることは不可能。そのため①②による学校制度が設けられているのである。なお、家庭には教育の欠陥

を証明する能力はない。更に、欠陥教育を是正することもできない。言うまでもなく、その「欠陥教育の犠牲になっている無垢で無知な子どもの人権を守ることなど到底不可能」である。ここで必然的に、「子どもの人権を守る責務は権威・権力側にある」という結論に到達する。

⑤今になって何故、小学一年生で「速さ比べをする際はゴールを一つにしなければならない」という当たり前のことを改めて教える必要があるのか？　そして、その当たり前のことと「普遍的な人格の形成」はどのような関係があるのか？　を証しておかなければならない。

さて、「**当たり前の事柄（ゴールは一つに限定）を最初に教えなければならない理由**」とは、**＊学問に絶対概念の導入（宇宙の仕組みを規範とする新たな学問体系の構築）を余儀なくされる＊**という結論に導かれるところにあるのである。そして、この新たな学問体系に伴い**＊宇宙の仕組みを規範とする普遍的人格が形成される（第三部：世界平和への科学的道⇔世界共通の概念・認識）＊**ことになっていくのである。

ちなみに、２３頁の緑色文章の内容、

・小学一年生の教科書には先ず、速さくらべをするときはゴール（速度
・基準）を一つにする必要がある、と書いておかなければならない。ま
・た、その理由は難しいので進級するにつれて習っていきます、と書き
・加えておけばよいであろう（学問体系が変わるため新たに多くの課題
・や理論が出てくる）。

を参考に、教育内容は工夫されたい。

⑥上記の通り、義務教育の出発点（小学一年生）からは宇宙の仕組み（科学的）に則った教育がなされていないことが証明済みであり、その反証が不可能な場合、直ちに是正しなければならないのは権威・権力側の責務である。しかし、権威・権力者は、

［１欠陥教育の証明］　［２教育界の弾圧（権力行使に拠る洗脳教育）］
［３国際連合人権理事会、アムネスティ、IBCR、…］
［４洗脳教育と日本の対応］　［５洗脳教育と教育警察委員会］
［６情報暴力団と洗脳教育］　［７洗脳教育と大学の立場］
［８悪の枢軸日本の法務省］　［９どう償うのか…］

の如く、反証なき弾圧という権力の暴走を続けているのである。有り体に言えば、

権威・権力者は世界の子どもに対する人権侵犯

という人類を破滅に導く恐ろしい状況をつくり出しているのである。

以上、新たな学問体系は宇宙の仕組みを規範としており、思想、宗教、権威・権力、文化の違い、法律、位、軍事力、金力などに左右されるものではない。というより、それら事柄に影響を及ぼすことになるのである。そして、新たな学問を身に

つけた子ども達の成長、つまり世代交代における権威・権力者の考え方も必然的に変わり人類の明るい未来がおとずれるというわけである。

◇マスコミ関係者の対応

Yahoo! JAPAN、グーグルは「子どもの人権を踏みにじってまで保身に走る権威・権力者」を下記の様に取りあげている。なお、５ちゃんねる、２ちゃんねるも世界の主要検索サイト（11頁）で同様の扱いとなっているが、検索する際は字数の制限のため件名を「子どもの人権を踏みにじる権威・権力者」にされたい。

※Yahoo! JAPAN（2022年1月19日13時26分確認）

https://search.yahoo.co.jp/search?p=子どもの人権を踏みにじってまで保身に走る権威・権力者&fr=top_ga1_sa&ei=UTF-8&ts=2683&aq=-1&oq=&at=&ai=a3bc607a-2e98-4cac-ade7-e1322abdbacd

> **11 観量性理論へ - 世界規模の間違い**
> 2021/12/15 - [11観量性理論] は、これまでに説明した通り新原理・原則（絶対
> 概念の導入）…子どもの人権を踏みにじってまで保身に走る権威・権力者.

※Yahoo! JAPAN（2022年1月19日17時47分確認）

https://search.yahoo.co.jp/search?p=子どもの人権を踏みにじる権威・権力者&x=wrt&aq=-1&ai=517d4247-0817-434f-9c05-b3b407946d2c&ts=17749&ei=UTF-8&fr=top_ga1_sa

> **子どもの人権を踏みにじる権威・権力者 - egg - 5ちゃんねる ...**
> 子どもの人権を踏みにじる権威・権力者 … 皆さんは、「与党や野党を問わず
> 子ども庁もしくは子ども家庭庁の創設」についての大々的な議論があることは…

※グーグル（2022年1月20日11時16分確認）

https://www.google.com/search?client=firefox-b-d&q=子どもの人権を踏みにじってまで保身に走る権威・権力者

> **11 観量性理論へ - 世界規模の間違い**
> 2021/12/15 - [11観量性理論] は、これまでに説明した通り新原理・原則（絶
> 対概念の導入）…子どもの人権を踏みにじってまで保身に走る権威・権力者.…

※グーグル（2022年1月20日11時24分確認）

https://www.google.com/search?client=firefox-b-d&q=子どもの人権を踏みにじる権威・権力者

> **子どもの人権を踏みにじる権威・権力者 - egg - 5ちゃんねる ...**
> 2 日前 · 1 件の投稿 · 投稿者 1 人
> 子どもの人権を踏みにじる権威・権力者 … 皆さんは、「与党や野党を問わず、
> 子ども庁もしくは子ども家庭庁の創設」についての大々的な議論があることは…

という具合に、「マスコミ関係者は新たな学問体系（絶対概念＝宇宙の仕組み）への転換を権威・権力者に対して促す行動に出た」。この行動は素晴らしい結果を導くことになる。

※日本経済新聞（2022年2月3日朝刊）
> こども家庭庁に調査・勧告機関案
> 自民党は子ども政策の司令塔となる「こども家庭庁」の設置にあわせて調査・勧
> 告機能を持つ第三者機関を新設する法案を検討する。今国会に政府が提出する設
> 置法案とは別に、関連した理念法として議員立法に盛り込む異例の対応となる。
> …中略…。
> こども家庭庁は当初、名称を「こども庁」と想定していた。党内で「子どもは家
> 庭を基盤として成長する存在だ」といった意見が出たため修正した経緯がある。
と報じた。なお、この時点で、他社は本件を取りあげていなかった。

【養育】と【学校教育】は混同されがちだが、前者は周囲の状況に左右され、後者の内容は左右されない。

ここで注意せよ。後者の問題すなわち、従来の欠陥教育（絶対概念を排除した相対概念一辺倒）を是正しない限りにおいては【普遍的人格の完成を目指す（第三部：世界平和への科学的道で詳述）】ことなど望めない。

目次へ戻る　　12 物理法則の不変基礎へ